

「北の防人」青森県防犯設備協会の紹介

青森県防犯設備協会 会長 山内 巨



青森県防犯設備協会は、太宰治の紀行小説津軽で「…本州の袋小路…」と称した本州最北の街にこぢんまりと集まつた組織です。太宰に称された津軽は、今は昔昭和期の名残です。



さて、はじめに青森県の交通体系の現状についてお伝えします。昭和期「津軽海峡・冬景色」で知られた青森～東京間10時間要していた国鉄夜行列車の時代とは一変しております。新幹線が青森まで開通しており来春には北海道函館市に延伸され、青森空港でのフライトがJAL・ANAのダブルトラッキング運航、高速道路東北自動車道の起点地である等、北奥羽の交通の要衝として発展しております。



次に、観光地としての現状についてですが、三方を…日本海・津軽海峡・太平洋…に囲まれ海の幸が豊富で、地形的には津軽半島・下北半島・岩木山と八甲田山に囲まれ半島・山岳に抱かれたむつ湾が、養殖ホタテの一大生産地になっている等自然に恵まれた温暖・温和な気候・風土を擁しております。



次に、人口動勢についてですが、青森県は青森市・八戸市・弘前市と3箇所で20万都市が繁栄しており、互いに発展しております。



それのことから、近年観光客・営業マン・不動産業者・投資ファンド等多数の人々が青森を訪れており、若干の賑わいを見せておりますが、来訪者の中には新幹線等を利用した窃盗目的のIターン・Uターンと称する犯罪者が入り込み、犯罪を敢行しているということも聞きます。交通の要衝である青森の犯罪情勢も悪化の傾向にあり、楽観を許さない状況です。



出典：
日本防犯設備協会資料

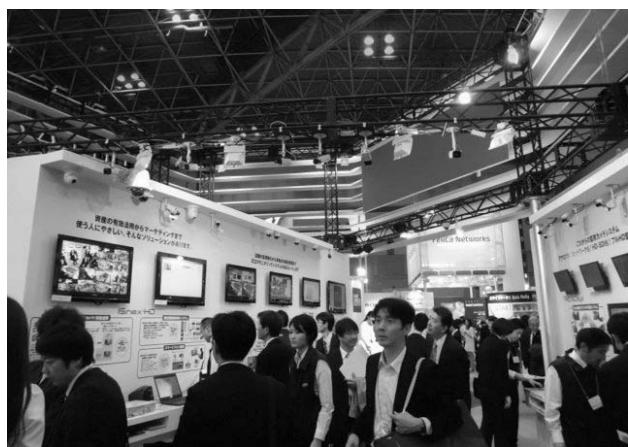
そのような現状を踏まえ、青森県警察本部の指導の下「安全安心まちづくり」の推進に参画する、青森県防犯設備協会の組織活動状況についてお伝えします。



協会組織の現状は、会員数が年々減少しており、法人会員16社・個人会員14人・賛助会員1団体で、総数31社となっております。

青森県の人口規模と同等の他県との比較では、まずはの規模のようです。

活動としては、県警の要請に応じた防犯設備士の派遣が主で、春と秋の防犯運動に呼応した広報活動を重点に防犯設備機器の展示・チラシの配布・セキュリティショーの研修参加等となっております。



具体的には、重点目標を「犯罪のない安全で安心な社会の実現」と掲げ、活動重点は

- 1.防犯に関する情報収集、調査研究活動の推進
- 2.優良防犯設備の普及に向けた啓発活動の推進
- 3.防犯相談・防犯診断・防犯セミナーを通じた啓発活動
- 4.官公庁・防犯団体関係との情報交換および防犯事業の参画

とし、実施内容は

- 県警主催の「春の安全・安心まちづくり推進大会」に参画しての広報活動
- 「ロックの日」のカギ掛け運動に参画しての広報活動
- 警察署で開催の防犯関係事業に参画しての広報活動
- 県警主催の「秋の安全・安心まちづくり推進フェスティバル」に参画しての広報活動
- 東京都で開催の「セキュリティショー」に会員を派遣しての機器情報・技術習得等を重点実施しております。

春の推進大会では、ロック協会との共同展示を実施しその際お集まり頂いた防犯関係者から「ドアロックの仕組み、防犯カメラの性能について良く分かりました」「地域でのカギ掛け・防犯カメラの普及に努めます」等の声を頂いております。



セキュリティーショーでの研修では、最新のカメラ搭載ラジコン「ドローン」の商業用活用事例講習を受け、4K映像の迫力を視覚的に体験し知識を得ました。



ロックの日には、プラスチック製カギ模型を展示した際、お集まり頂いた防犯関係者から「ワンドアツーロックの重要性を知りました」「地域でワンドアツーロックの普及に努めます」との声を頂いております。



以上のように徐々にではありますが、防犯設備の普及・協会の存在広報が進んでおりますが、今一步の現状です。

最後になりますが、課題と対策について触れさせて頂きます。

課題としては、

- 1.会員数の減少と、新規会員の加入
- 2.事業の前年踏襲と、新規事業の企画
- 3.広報の事業化 等

が上げられその対策として

- 1.広報媒体の活用
- 2.会員との情報交換の活性化
- 3.防犯関係各社への広報活動 等

が検討されました。

具体策としては、

「本年度から、ラジオ・テレビ・新聞等の媒体に広告を依頼し、協会の存在とその活動を広く県民にアピールする。」ことから始め、地道に会員数の増加と新規事業の展開を図ることとし、今後の協会活動の活性化を積極的に推進して参りたいと考えております。

